

2018年10月20日

原子力空母R・レーガン甲板へのヘリの墜落事故についてのコメント

原子力空母母港化の是非を問う住民投票を成功させる会

共同代表 呉 東 正 彦

第7艦隊の発表によれば、昨日、フィリピン海上で、原子力空母R・レーガンの甲板を離陸した直後のMH60ヘリが、同艦の甲板上に墜落し、12名がケガをしたとのことである。

原子力空母は原子炉を積んだ軍艦であり、原子炉の直上で、可燃物を多量に積載したヘリの墜落事故を起こったことが、原子炉事故に繋がりがねないという原子力空母のもつ危険性に、慄然とせざるをえない。

また近時、米軍ヘリの墜落事故が相次いでおり、軍事的緊張状態の継続による作戦行動の過多による、整備不良や、訓練不足が、その原因として指摘されており、これは昨年連続した、横須賀を母港とするイージス艦の連続事故と共通するものであり、今回の事故でその状況は改善されておらず、さらなる事故の発生も大きく懸念される。

米海軍に対して、今回の事故の詳細、原因、原子炉への影響、そしてこれまでに繰り返し指摘されてきた、作戦行動の過多による、整備不良や、訓練不足の改善計画が、きちんと履行されたきたのか、についての完全な情報公開と、原子力空母母港住民への説明を強く求めるものである。